DS愛の園新聞

デイサービスセンター愛の園

人ひと

今月は岩田から来られています宮本照男さんのお話をご紹介させて貰います。宮本さんは大正十五年生まれ、ちょうど激動の昭和初期に学生時代を過ごしました。宮本さんが田辺中学時代、太平洋戦争も終焉に近づきつつあった当時、田辺中学四・五年生は軍需工場へ学徒動員で駆り出されました。当時の四年生は枚方へ、宮本さん達五年生は西明石の川崎航空へ。毎日一部屋に一〇人がザコ寝する寮に入り飛燕という飛行機のエンジンの部品を作っていたそうです。当然ながら学生ではあっても中学に入ってからは勉強する時間も無く、和歌山六一連隊の管理下の元で軍事教練や工場での仕事ばかり。当初は粗末ながらも出ていた寮の三度の食事も、食料が底を尽き始めると大根を塩水に漬けただけといったモノが食卓に並んだそうです。「何百、何千人っていう学生が来とったからなぁ」後にこの生活が祟り宮本さんは内臓を患ってしまったそうですが、今でもそれだけは悔やまれる事だそうです。「田舎におったら畑で何か作ったり出来たやろうし、ヤミガネでもあれば何とか出来たんやろうけど、当時は学生、そんな甲斐性も無かったからなぁ。」

休みの日となれば姫路の町に出かけ「何か食べるものが手に入らないかと足を棒にして歩き回って、余計に腹を減らして寮に帰って来る（笑）」そんな生活が続いた宮本さんにある事件が降りかかります。当時同じ工場に動員された和歌山中学の学生達が寮から脱走、すぐに憲兵に全員捕

まったそうですが田辺中学も脱走を画策する動きがあったそうです。その時宮本さんは仲間達を説得し仲裁役に回ります、しかしその働きが仇となり、心無い仕打ちを受ける事もありました。「行くも留まるも命にかかわる様な状態やったから、しょうがなかったんやなぁ。」大変な時代を過ごされたんですねぇ。

宮本さんはこの年に徴兵検査を受け出兵を待ちながら終戦を迎えます。「この時代ほど一つの年齢の違いが人生を分けた時代は無かった。」本当に重い一言です。我々が今こうして平和に暮らせる事は本当にありがたい事なんですねぇ。

夏到来

六月二四日、新庄公園での散歩中の一コマです。

一面に咲いたヒマワリの花（なかなか圧巻ですねぇ）をバックに一枚。やっと「夏到来」といった雰囲気ですね。遅ればせながら今年も暑い季節がやってきます。暑さに負けずセンターを皆さんの笑顔の花で一杯にしていきましょう。

この日は良い天候にも恵まれ、随分皆さんの足取りも軽やかでした。結構な距離を頑張って歩きましたねぇ（喜）　暑い中ご苦労様でした。

定員が増えました

このたびデイサービスセンター愛の園は、従来の定員を五名増員し定員二五名に変更となりました。

これまで定員の問題により、満員の日が多く皆さんのご希望に添えない事もありましたが、これで全ての曜日に空きがある状態となりました。以前からお申入れのあった方から順番に利用して頂いておりますので、既に残りわずかとなる曜日もありますが、ご希望の方は是非担当のケアマネージャーさんかセンターの方までご相談下さい。

畑レポート

先月号でご紹介した「うすいえんどう」。後日豆御飯を炊き、おにぎりにしてみんなで頂きました。

ちょっぴり塩味の豆御飯。お味はどうでしたか？次は秋の焼き芋ですねぇ。

男の勝負

ある日の昼下がり。センターの訓練スペースから何やら騒がしい声が聞こえてきます？

「先生ぇ　違うって」「いやいや、そんなはずは無い」

何事かと駆けつけて見るとこの通り。

両者譲らずの好勝負。皆さんの目でどうか御判定をお願いします・・・・昼下がりの一コマでした。

（注　あくまで御二人のご承諾のもとにこの記事を掲載させて頂きました。）

六月は

梅雨、まさに梅の実が生る頃の雨の時期なんですが、一説には中国から「黴雨（ばいう）」カビの雨という言葉が伝わり、梅（バイ）の字を当てはめたとも言われるそうです。そんなうっとおしい季節ですが近年は「空梅雨」なんていう年も多く、畑を枯らしてしまったなんて話もよく耳にします。今年は台風の影響もあって例年に比べて”雨量も多め”と言う事ですが、実際に畑の土を掘ってみると「随分乾いている」という印象です（困）。

さて、今月の宮本さんのお話、いかがでしたか。戦時中、実際に戦地に行かれた方々だけでなく、その時代に留守を守った方々、学生、子供まで皆が大変な思いをされていた事がよくわかりました。センターが開設してから十四年。年々その時代の体験を話して頂ける方が少なくなっています。どうか我々若い者達が二度とそんな思いをしない様に、皆さんが体験された貴重なお話しを是非教えてやって下さい。（C）

DS愛の園ご利用状況

月曜日　◎空きあります
火曜日　◎空きあります
水曜日　○残りわずか
木曜日　◎空きあります
金曜日　◎空きあります
土曜日　○残りわずか

☆送迎については
ご相談下さい

〒649-2103
和歌山県西牟婁郡上富田町
生馬３１６－５６

ＴＥＬ　(0739) 47-0105
ＦＡＸ　(0739) 47-4329

ホームページ
http://shinai.or.jp

「キリストの愛を以って
互いに仕える」